令和5年11月24日 (2023年)

吹田市立吹田第三小学校校 長 木下 政治

# 令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

### 1 教科に関する調査の分析

#### ●国語《概要》

- ・全体的には全国値よりやや下回っている。
- ・選択式の設問では正答率が全国平均よりやや下回っているが、全体的に無回答は少なかった。
- ・記述式の設問では、条件を満たしていない回答が目立った。
  - ●国語《各領域における成果と課題》

### 言葉の特徴や使い方に関する事項…全国値をやや下回る。

漢字の書き直しの問題の正答率が50%を切る設問があり、課題が見られた。また、敬語の使い方は、全国値をやや下回っていた。情報の扱いの問題は、情報の読み取りはできたものの、情報の整理の方法を問う問題には、誤答が目立った。問題の意図がくみ取れなかったのではないかと考えられる。情報の扱い方に関する事項…全国値とほぼ同じ

「原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる」では、正答率が全国値より上回っている。しかし、「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」では、正答率が全国値より下回っている。2 問とも選択式だが、全国値より下回った設問は、情報量が多く処理するのが難しくなったのではないかと考えられる。

## 話すこと・聞くこと…全国値をやや下回る。

「目的や意図に応じ話の内容をとらえ話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」では、正答率が全国値より上回っている。

しかし、「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を 捉えることができるかどうかをみる」では全国値をやや下回っている。これは会話の前後の流れから、 「発言者の発言」の意図を読み取る設問である。一部だけでなく、前の会話文とのつながりを読み取ることが求められるが、インタビューの質問の意図を正しく理解できていないと考えられる。しかし、インタビューの内容をまとめる記述では正答率が全国値を上回っている。

### 書くこと…全国値を下回る。

「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き方を工夫することができる」では、全 国値と比べて正答率が下回っている。

この設問では、ただ、テーマにそって書くだけでなく、「情報の読み取り」、その「情報を整理」 し、さらに整理した内容をもとに文の続きを「書くこと」が求められる。落ち着いて、すべき手順を 1つずつ実行していきながら書く力が求められている。

資料をもとに、必要なことを落とさず、自分の考えが伝わるように文章でまとめることが苦手だと 思われる。

読むこと…全国値をやや上回る。

すべての設問で全国値とほぼ同じか上回っている。選択式も記述式も、内容を読み取り、答えることができていた。

●国語科における成果と今後の指導改善のポイントについて

#### 《成果》

- ・読み取りの問題はよくできていたので、日ごろの読解の授業の成果と考えられる。 《改善》
- ・漢字は、新出漢字を学習するだけでなく、同音異義語などにも日常的に取り組むとよいと考える。また、漢字の意味をしっかり押さえて定着させることで、日常的に漢字を使って文章を書くことができるように指導したい。
- ・情報の処理に苦手が見られたので、国語科だけでなく、算数や社会でのグラフの読み取りなど も意識して指導するとよいと考える。また、自分で調べたことをまとめる経験を積むことで、 さまざまな形式の問題にも対応できると考える。
- ・問題の意図をつかめず、誤答している問題があったので、国語科だけでなく、他教科の文章題などでも、何を聞かれていて、どうこたえなければならないか指導していく。国語科では答え 方の語尾なども注意して指導する。(理由→「~から」「何?」→「~こと」など)
- ・書くことや話すことで、正答率が低かった設問では、共通するところがみられる。いずれの設問も、順序性や文と文のつながりを読むなど論理的な思考が求められる。この論理的な思考力をつけるためには、書くときや話すときだけ、論理性に気を付けるのではなく、論理的に読む力をつけ、それを習慣化していくことがもっとも大切であると考える。
- ・文学作品の中で、作者が伝えたいことを伝えるために、「どのような設定をして、どのような 出来事を発生させ、中心人物をどのように変容させたのか」などを整理しながら読み取る練習 を重ねていくことが、読む活動の中で論理的思考をつけることにつながっていくと考える。

#### ●算数《概要》

- ・全体的には全国値をやや上回っている。
- ・選択式、短答式、記述式の設問すべてにおいて、平均正答率は全国値をやや上回っている。
- ・全体的に無回答の児童は少なかった。

●算数《各領域における成果と課題》

数と計算…全国値とほぼ同じ。

・基本的な計算や求め方は理解しているが、示された式を場面と関連付けて読み取ることが苦手な児 童が多くみられた。

図形…全国値をやや上回っている。

・さまざまな多角形の意味や性質については、概ね理解できているが、「形は違うが高さが等しい三 角形は面積が等しい」ということを図から読み取れた児童は少なく、その理由を明確に記述するこ とができなかったようである。

変化と関係…全国値を上回っている。

- ・伴って変わる二つの数量について、表をまとめたり、表から必要な数を選んだりすることはできているが、知りたい数量を式や言葉を用いて記述する問題では、途中まで考えたものの、答えにたどりつかなかった児童や、理解できていない児童が多かった。
- ・百分率で表された割合の問題は、全国平均値を上回った。

データの活用…全国値をやや上回っている。

- ・示された棒グラフから、指定された数について記述する問題は、まとめ方の例があったので、それ を参考にまとめることができた児童が多かった。二次元の表から、条件に合う数を読み取る問題も、 全国平均値を上回った。
  - ●算数科における成果と今後の指導改善のポイントについて

本校では、算数の授業において、3年生から少人数指導を行っている。算数の正答率が、全国平均値を上回ったことや、無回答率が低かったのは、児童の課題や関心に基づいた学習集団づくりを進め、きめ細かな指導を進めてきた成果であると考える。

ただ、記述式の問題では課題が見られた。与えられた場面から題意をとらえ、筋道立て、算数の 用語を用いて表現することが苦手な児童が多い。

今後も基礎基本の定着を図り、自分の考えを言葉や式等で表現したり、図や表、グラフから必要な情報を読み取って表現したりする時間を確保していく。また、自分の考えを友だちにわかるように説明したり、友だちの考えを理解し、ともに深め合ったりする授業を展開していきたい。ICT機器も充実してきたので、視覚的支援や意見の交流等にどんどん活用し、より分かりやすく、児童が前向きに取り組めるような授業研究を進めていく。

#### 2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

- ・「朝食を毎朝食べていますか」という項目に対して、「している」と答えた児童は、全国値より上回っている。
- ・「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」という項目に対して、全国値を下回っている。また、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」という項目でも全国値を下回っている。
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」という項目に対して、全国値を上回っている。
- ・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人に相談できますか」という項目に対して 「当てはまる」と答えた児童は、全国値を上回っている。
- ・「学習の中で PC、タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強に役に立つと思いますか」という

項目に対して全国値より下回っている。

「先生は良いところを認めてくれる」の項目に対して全国値より下回っている。

### 【教科・学習について】

- ・「国語の勉強は好きですか」という項目に対して、全国値より下回っている。また、「国語の 勉強は大切」や「授業はわかる」などの質問項目に対しても全国値より下回っている。
- ・「国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友だちと伝えあい、自分の文章のよいところを見付けていますか」という項目に対して、全国値より下回っている。

朝食を食べる習慣はできている児童が多く、朝の生活リズムは確立している。ただ、起床時間、就寝時間が一定していない児童が多く、生活リズムが安定していない児童も多いことがわかる。 規則正しい生活リズムが、児童の心身の発達に影響するので、家庭科や保健体育の授業を通して、 児童自身の意識改革と、家庭との連携を密にしていく。

学校として誰にでも相談してよいことを繰り返し児童に伝えていく。そして、日々の児童の様子を把握し、変化があれば教師から声掛けするなど、相談しやすい雰囲気づくりを目指していく。子どもたち一人ひとりと本気で向き合い、話を聴き入れ、些細なことでもたくさん素敵なところを見つけ伝えてあげることが必要である。マイナス部分にフォーカスし、そこだけを指摘し注意しがちですが、プラスな部分にフォーカスし、友だちの接し方、話し方、授業の様子や発表の仕方などを取り上げていく。

国語の時間で自分の考えなどを文章で書く機会が少ないため、伝えあい活動を増やしていく。 「国語はなぜ必要なのか」「国語で大事にしたいことは何か」など学校全体で意識を持って取り 組む必要がある。

### 3 今後の取り組み

教科に関する結果を踏まえ、算数科では平均正答率が全国平均より上回っているものの、記述については依然課題が残っています。また国語科でも「書くこと」について平均正答率が全国平均より下回っています。昨年度より研究テーマを「自分の考えを相手に贈る」に設定し、児童が「相手意識をもって話したり書いたりできるようになること」「語彙を豊かにすること」という目的をもって学習に取り組むことが重要と考え、授業の中で自分の考えを話したり書いたりする活動を多く取り入れています。子どもたちが主役となる授業を進めることで「自分の考えを相手に贈る力」を高めていきます。

また、生活環境や学習習慣等の結果を踏まえ、子どもたちの自尊感情や自己有用感を育み、人間関係づくりを醸成させる取り組みを進めることで、基本的生活習慣の定着、生活規律・学習規律等の規範意識を高めたいと考えます。そのためには学校としてより一層、家庭・地域との連携が必要です。今回の分析を踏まえ、努力を重ねてまいりますので、今後も本校の取り組みに対してご支援、ご協力をお願いいたします。